

2025年(令和7年)

第886号

11月

編集及び発行人:
東京土建一般労働組合
杉並支部
杉並区高円寺南3-6-2
TEL(3313)1445
FAX(3313)7096
メール doken-suginami@mx10.tton.ne.jp
定価1部50円(購読料は組合費に含む)

●建設業に働くみなさんの仕事とくらしを応援します

すぎなみ



秋の拡大月間完走! 117人の新たな仲間を迎える

8月下旬から総力を結集しておこなわれた「秋の拡大月間」は、117人の新しい仲間を迎える無事に完走することができました。訪問行動への参加や知り合い・社員の紹介など、拡大月間にご協力いただいたすべての仲間のみなさんに、改めて感謝申し上げます。

12.1 新加入者歓迎会のお知らせ



組合をもっと利用しよう

1月から11月までに新しく組合に加入した仲間を対象に「新加入者歓迎会」を開催します。「組合の制度や取り組みを知ってもらう」「分会の仲間とのつながり作り」が主な目的です。分会でも呼びかけをお願いします。

新加入者歓迎会

[日 時] 12月1日(月) 19時~

[会 場] 杉並支部会館3階

[概 要] 組合制度説明会・新加入者歓迎会



石川組織部長

第8次までおこなわれた「訪問行動日」では仲間との対話を重視。「賃金単価引き上げ、請求要求アンケート」を活用し、仲間の現状を聞き取りました。(合計163枚を回収)。

また、組合制度や建設情勢を伝える情報発信の手段として杉並支部LINE公式を活用。10月末までに登録いただくと

組合員へ訪問開始



春のキャンペーン景品を届ける

貯まり、5ポイントごとにカレーラーメンを贈呈、抽選会を開催しました。

拡大打ち上げ式ではスタンプカードを使用した抽

選会を開催しました。

拡大打ち上げ式ではスタンプカードを使用した抽</p

地域との結びつきを強化する活動



杉二小授業支援

震災救援所訓練

今年の3月26日に杉並区と「震災救援所(杉並区)における避難所のこと)での応急対策業務に関する協定」を締結したこととともに、「まちの救助隊ビーバーズ」の活動が活発化しています。昨年初めて参加した杉六小学校震災救援所訓練に今年も協力、新たに松の木小学校震災救援所訓練にも協力しました。一方、浜福分会が長年協力している杉二小授業支援に今年も協力。地域との結びつきを強化する活動の報告です。

杉並区役所から依頼があり、各小学校にある防災倉庫に常備している「災害用資機材」の取り扱いを参加者に説明し、実際に体験してもらいました。

「掛け矢」「バーレル」「ツルハシ」「油圧ジャッキ」などが防災倉庫にあることを知らないまま実際に見たこともない人や、その資機材の使い方を経験してもらうことで、初めて有事の際に役立つことがあります。

分会再編前の成浜分会から継続しておこなっている杉二小授業支援も今年で27回目を迎えました。杉二小を卒業した組合員自ら生徒に工作指導をすることは、感謝深いものがあります。

9月30日には3年生3クラスを担当。小刀を使った鉛筆削りを指導しました。講師の樋

地域の活動に協力
関係を強化

杉並区役所から依頼があり、各小学校にある防災倉庫に常備している「災害用資機材」の取り扱いを参加者に説明し、実際に体験してもらいました。

「掛け矢」「バーレル」「ツルハシ」「油圧ジャッキ」などが防災倉庫にあることを知らないまま実際に見たこともない人や、その資機材の使い方を経験してもらうことで、初めて有事の際に役立つことがあります。

9月27日におこなわれた杉六小学校震災救援所訓練には、生徒のほか町会や自治会など地域住民、区職員など約270人が参加。訓練のねらいは「多世代にわたる防災倉庫にかかることを知らないまま実際に見たこともない人や、その資機材の使い方を経験してもらうことで、初めて有事の際に役立つことがあります。

10月18日におこなわれた松の木小学校震災救援所訓練では、20人程の中低学年8クラスに災害用資機材の使用体験を通じて災害時の対応を模擬体験する

270人が参加。訓練のねらいは「多世代にわたる防災倉庫にかかることを知らないまま実際に見たこともない人や、その資機材の使い方を経験してもらうことで、初めて有事の際に役立つことがあります。

10月18日におこなわれた松の木小学校震災救援所訓練では、20人程の中低学年8クラスに災害用資機材の使用体験を通じて災害時の対応を模擬体験する

270人が参加。訓練のねらいは「多世代にわたる防災倉庫にかかることを知らないまま実際に見たこともない人や、その資機材の使い方を経験してもらうことで、初めて有事の際に役立つことがあります。

10月18日におこなわれた松の木小学校震災救援所訓練では、20人程の中低学年8クラスに災害用資機材の使用体験を通じて災害時の対応を模擬体験する

270人が参加。訓練のねらいは「多世代にわたる防災倉庫にかかることを知らないまま実際に見たこともない人や、その資機材の使い方を経験してもらうことで、初めて有事の際に役立つことがあります。

10・15ひまわり主催
折り紙教室世代を超えて
受け継がれる折り紙

【大島 孝子 ひまわり会長・記】10月15日にひまわり主催で「折り紙教室」を初めて開催しました。講師の遠藤知子さん(台東支部)に教わりながら、全員が「八角形のおしゃれな小物入れ」を上手に作ることができました。

遠藤さん自身も前に台東支部主婦の会から教えてもらつたそうで、支部を越えて世代を超えて、折り紙が伝わっていくのも趣きがあるなあと思いました。

ひまわりは、これからも会員のみなさんの意見を取り入れて楽しい催しを企画していきます。みなさんも参加を!



堀ノ内一丁目の擁壁・
家屋倒壊現場



と違い民有地での擁壁は、その

こと。慣れてきたら

かつた」といった感想があ

りました。

10月3日には4年生

3クラスを担当。「ノ

コギリの切り方」を指

導しました。切れた端

材は後日組立てに使

ます。講師の大淵修さ

ん(浜福・大工)は「ノ

コギリの刃は下に向け、

自分の体に近づけて移

動してください。(コツ

が上がりました。「王

建のみなさんが丁寧に

教えてくれたのでキレイに削ることができた

「切れた瞬間が気持ち良かつた」といった感想

がありました。授業支

援の取り組みは、今後も継続していきます。

老朽化した擁壁は全国で100~300万箇所あると言われています。

私たちには、建築土木の専門家として、都市にもあるこのよう

な擁壁に意識を向け、行政側に注意喚起の報告をするなどして災害防止に取り組むことも必要なのではないかと強く思いました。



防災士が語る
行政に注意喚起を
擁壁に意識を向け

青木 隆之 防災士

